



Japan Display Inc.

2022年度 第1四半期
決算説明資料

2022年8月9日

株式会社 ジャパンディスプレイ



PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

2022年度第1四半期 業績報告

- **売上高**は、前年同期比（YoY）で車載分野は堅調も、モバイル/欧米分野の継続減少により、**13.4%減少**
- **営業損失**は、減収によりYoY10億円悪化も、費用圧縮、2Q以降の車載向け出荷拡大に向けた在庫積み増し、円安の効果により、**予想比では56億円の大大幅改善**
- **四半期純損失**は、為替差益の計上等により、YoY19億円改善、**予想比72億円の大大幅改善**
- **通期業績予想は変更なし**

(億円)	FY21 1Q 実績	FY22 1Q 実績	増減
売上高	660	571	-89
モバイル/欧米	214	101	-113
モバイル/中国・他	87	57	-30
車載	209	269	+60
ノンモバイル	150	145	-5
EBITDA	△ 37	△ 47	-10
営業利益	△ 59	△ 69	-10
経常利益	△ 64	△ 43	+20
四半期純利益	△ 70	△ 51	+19
為替レート (対USD)	109.5	129.7	

差異の理由

モバイル/欧米： 減少トレンド継続

モバイル/中国・他： 顧客の在庫調整とスマホ販売減による出荷減

車載： 半導体不足に加え、上海ロックダウン・ウクライナ情勢の影響により顧客・当社にて生産制約を受けるも、自動車在庫水準低く、需要旺盛

ノンモバイル： ウェアラブル用需要減響く

在庫増と円安のプラス影響あるも、減収により減益

為替差益28億円（営業外収益）の計上等

子会社株式売却債権に係る事業構造改善費用戻入益 10億円（特別利益）
減損損失 11億円（特別損失）

(億円)	FY22 1Q 予想	FY22 1Q 実績	差異
売上高	625	571	-54
モバイル/欧米	80	101	+21
モバイル/中国・他	57	57	+0
車載	358	269	-89
ノンモバイル	130	145	+15
EBITDA	△ 102	△ 47	+55
営業利益	△ 125	△ 69	+56
経常利益	△ 128	△ 43	+85
四半期純利益	△ 123	△ 51	+72
為替レート (対USD)	123.0	129.7	

増減の理由

モバイル/欧米：主に円安効果

モバイル/中国・他：顧客の在庫調整とスマホ販売減による出荷減を円安で相殺

車載：上海ロックダウン及びウクライナ情勢の影響に伴う顧客・当社の生産制約により減少

ノンモバイル：部材不足の影響は想定範囲内にとどまり、円安効果で上振れ

コスト圧縮、2Q以降の車載用出荷拡大に向けた在庫積み増し影響、円安効果で大幅改善

為替差益28億円（営業外収益）

減損損失11億円（特別損失）

前年同期比

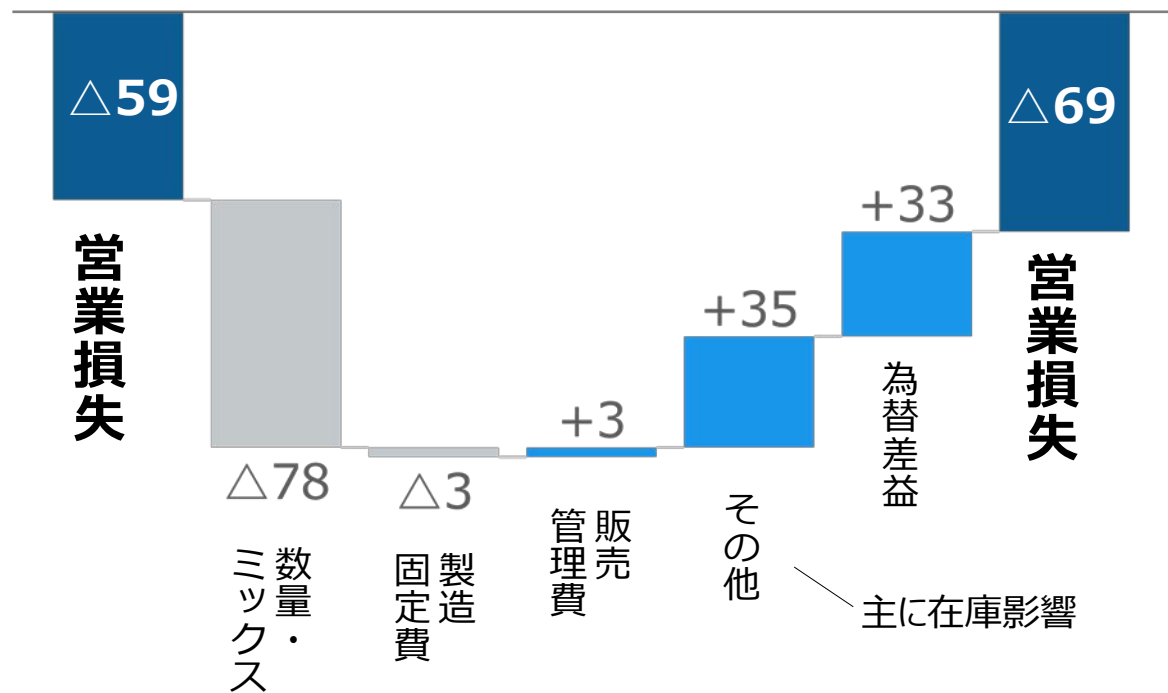
(億円)

FY21 1Q

売上高: 660

FY22 1Q

売上高: 571



前四半期比

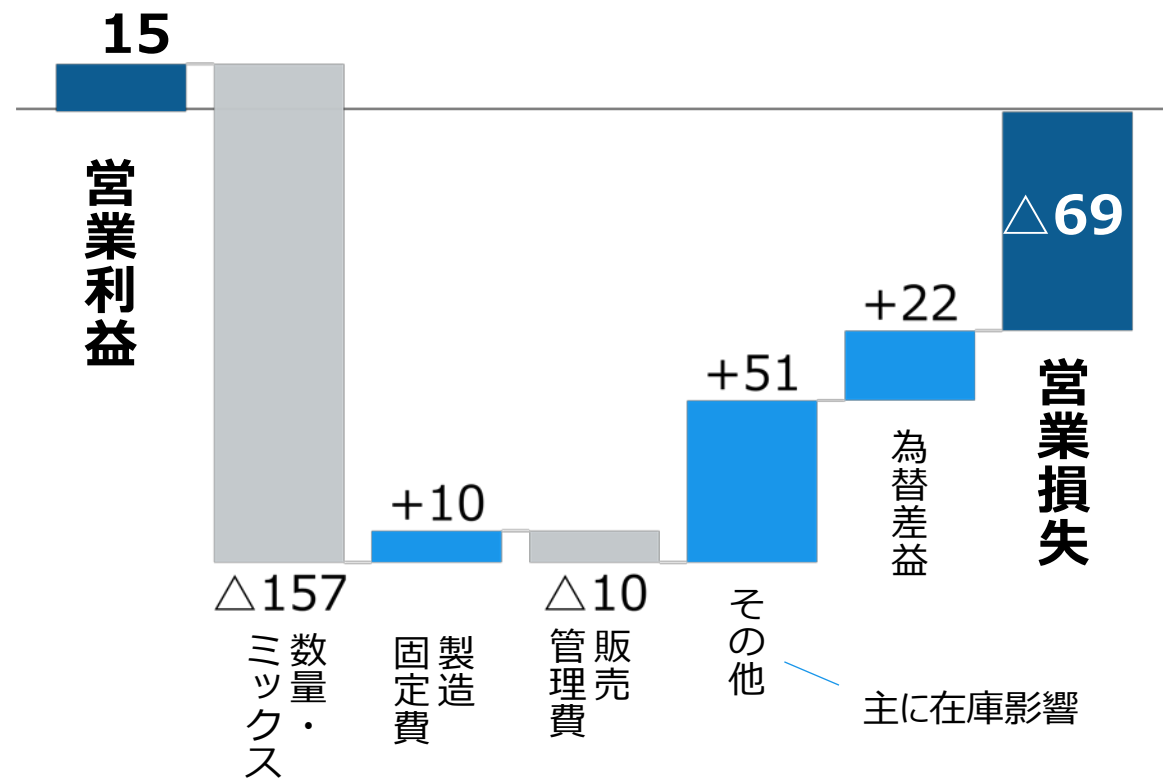
(億円)

FY21 4Q

売上高: 864

FY22 1Q

売上高: 571



車載需要は堅調の一方、モバイル・ノンモバイルは弱含み。売上最大化とコスト低減継続に取り組むとともに、インフレ高進・地政学要因の影響に注視し、外部環境変化に機動的に対応

	事業環境	対策
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の在庫調整は当面継続の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールハウス向け等販路を広げた新規ビジネスの獲得 シェア拡大に向けた戦略的取り組み強化
車載	<ul style="list-style-type: none"> 足元需要は堅調。長引く半導体不足の影響や、ガソリン価格高騰の影響は要注視 中国のゼロコロナ政策、地政学要因によるサプライチェーンへの影響リスクあり 	<ul style="list-style-type: none"> 確実な部材調達による出荷最大化 リスクに備えた部材在庫確保と代替供給網の確保
ノンモバイル	<ul style="list-style-type: none"> インフレ影響により、民生品向けの需要見通しが弱含み傾向 	<ul style="list-style-type: none"> メタバース関連新製品の開発と早期立ち上げ 医療用等の産業用製品拡販強化
全体	<p>新規事業の事業化加速、生産コスト他費用削減継続、資金管理強化</p>	

円安トレンド継続によるプラス効果が期待される一方、インフレ高進等による事業環境の不透明感が増大し、モバイル・ノンモバイル分野の需要が弱含んでいる現状を踏まえ、現時点でFY22の業績予想は修正なし

足元の経営環境変化に機動的に対応しつつ、成長戦略「METAGROWTH 2026」実現に向け必要な投資・開発・交渉を着実に実行中

「METAGROWTH 2026」財務KPI

(単位：億円)	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25	FY26
	(実)	(実)	(実)	(予)	(予)	(予)	(予)	(予)
売上高	5,040	3,417	2,959	3,291	3,355	3,845	4,182	4,735
EBITDA	△196	△125	2	△92	164	379	674	1,044
営業利益 (△損失)	△385	△262	△86	△194	40	199	480	833
経常利益 (△損失)	△579	△327	△80	△208				
当期純利益 (△損失)	△1,014	△427	△81	△214				
為替レート前提 (円/米ドル)	109	106	112	123	120	120	120	120



Japan Display Inc.

事業の状況

上海ロックダウンやウクライナ情勢の影響起因のサプライチェーン混乱により、1Qは車載分野で想定以上の受注減・生産減が発生。但し上海ロックダウンの影響は、1Qで概ね収束

次世代OLED「eLEAP」、超低消費電力バックプレーン「HMO」、透明ディスプレイ20.8インチ、TFT圧力分布センサー等多数の新技術・製品を発表

「世界初、世界一」の技術・製品を成長ドライバーとする成長戦略「METAGROWTH 2026」を発表

ESGへの取り組みの一環として、GreenTech技術の開発、再生可能エネルギーの利用拡大、ウクライナ避難民支援活動を実施

競争力強化と収益力向上策の一環として、東浦工場の生産停止（2023年3月予定）を発表

eLEAPIは商標登録出願中です。Raelclearは当社の商標登録です。

eLEAP (次世代OLED)

- 8月より**サンプル出荷開始**
- 具体的なプロジェクトが発足し、**複数顧客との具体的な商談開始**
- 複数候補との具体的な**ライセンス協議開始**

1

HMO (High Mobility Oxide)

- HMOの事業化に向けて、**オープン戦略**の推進開始
- 複数候補との具体的な**ライセンス協議開始**

2

メタバース (超高精細ディスプレイ)

- 複数顧客との商談進行中
- **更なる超高精細VRディスプレイ(2500ppi)の開発着手**
- VR向けHMOの試作開始

3

AutoTech

- 部材不足の影響を受けるも、自動車在庫少なく、需要は堅調
- 「プライバシービュー」機能含む統合コックピット、進化系HUDの顧客関心高い

4

Rælclear (透明ディスプレイ)

- 表示する情報量が増やせる**20.8型を開発**。23年秋に量産出荷開始予定
- 12.3型は**自治体等への導入推進中**

5

新技術・新商品・新事業

- **外付けホバーセンサー販売開始**
- **世界初 フレキシブルLTPS TFT圧力分布センサーを開発**

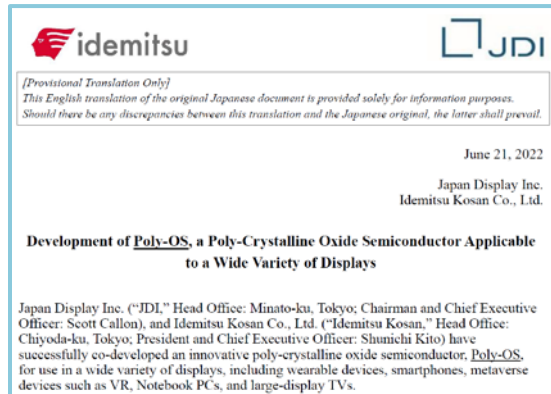
6

eLEAP拡販用サンプル完成し、8月よりサンプル出荷を開始

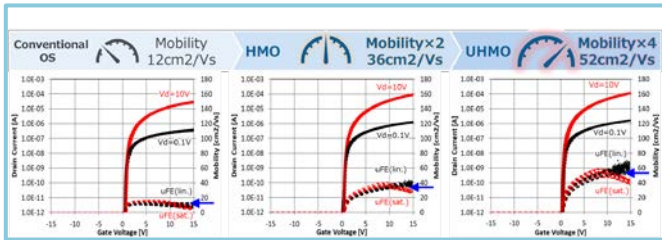


技術のオープン戦略を取ることで過去に例のないスピードでビジネス化の動きが加速

出光興産との共同
プレスリリースを実施
技術開発での
協力体制を強化



複数の顧客とアライアンス
に向けた話し合いを開始



世界初の技術を実現

技術開発

'22/3

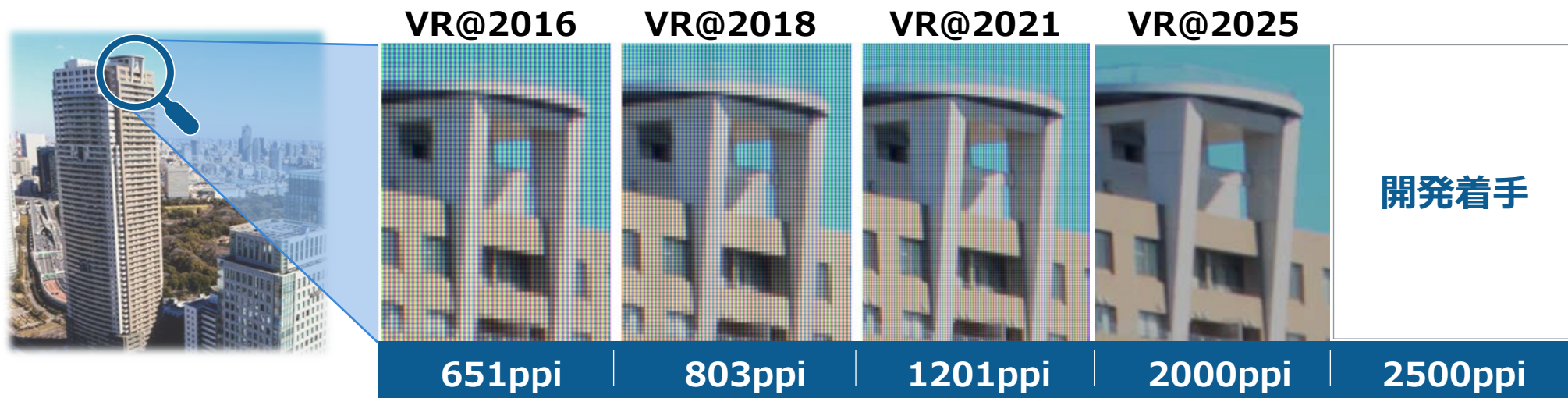
オープン
戦略

'22/6

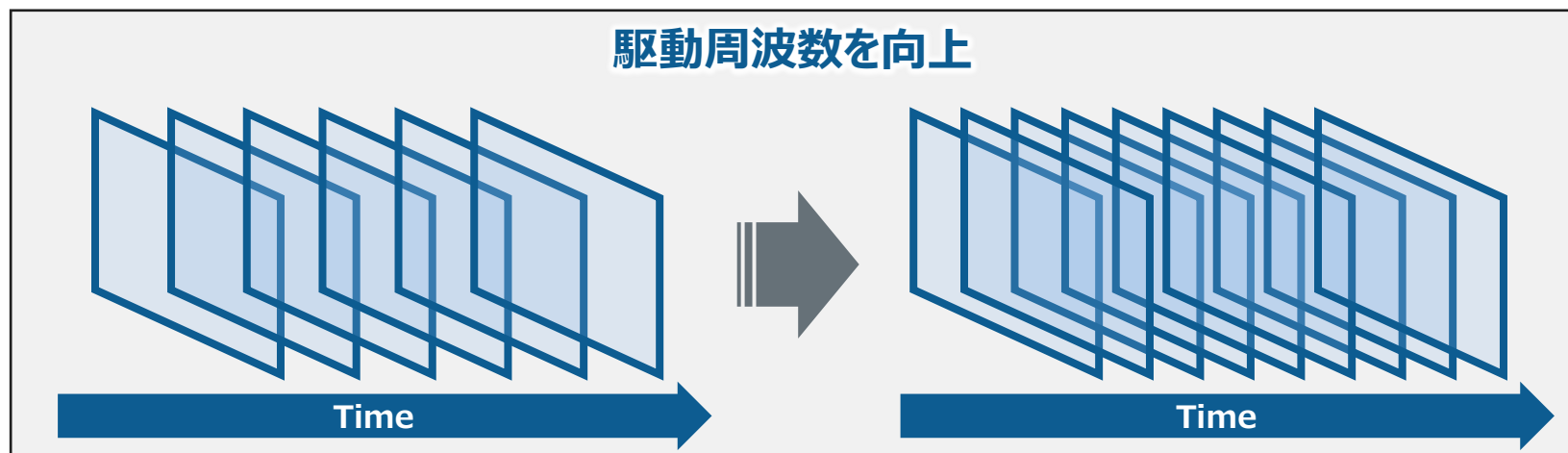
事業化

現在

➤ 超高精細パネルにおけるリーディングポジション維持のため、2500ppiパネルの開発に着手



➤ VR向けに駆動周波数向上が見込めるHMOの試作を開始



「12.3型」



- ✓ 中途失聴・難聴者団体への説明・体験会の実施、高い評価を得、23の自治体より購入要望あり
- ✓ 翻訳機能を持つ音声文字テキスト化ソフトとコラボレーションし、ウクライナ避難民支援の一環としてRaelclearを寄付（ウクライナ大使館他5市）



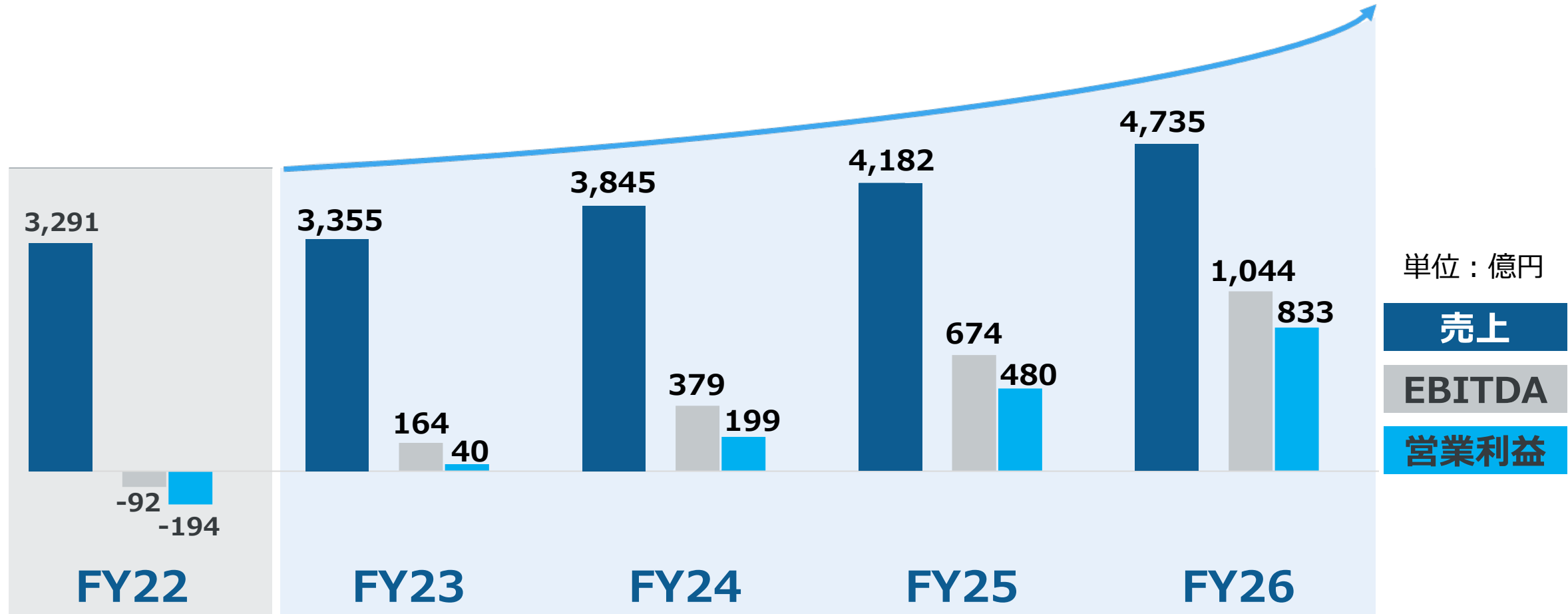
Raelclear
レルクリア

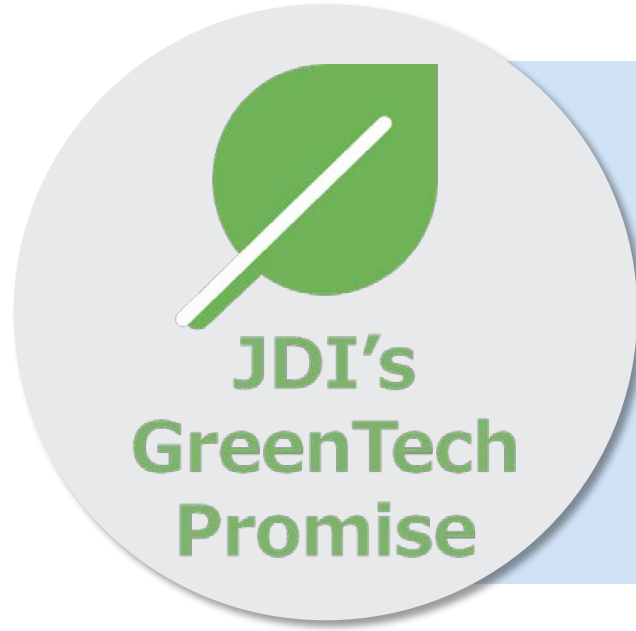
「20.8型」



- ✓ 20.8型プロトタイプ完成、お客様へのデモ開始
- ✓ お客様からの高い評価（極めて高い透明度と画像の美しさ）
- ✓ FY23量産開始、販路（国内+海外）・ビジネス拡大を計画

足元の経営環境変化に機動的に対応しつつ、成長戦略「METAGROWTH 2026」
実現に向け必要な投資・開発・交渉を着実に実行中





JDIは、より環境に優しく、持続可能な企業になるための取り組みを強く推進しています。工場では、常に環境に与える影響を考慮し、資源使用量や排出量を定量的に削減する取り組みを行います。

JDIの「環境/ESG」への継続的な取り組みが評価され、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexへの組み入れ企業に選定されています。

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

- FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されています
- 2022年3月、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）のESGのパッシブ運用ベンチマークとしても採用されています

太陽光発電設備設置部 (濃青部)



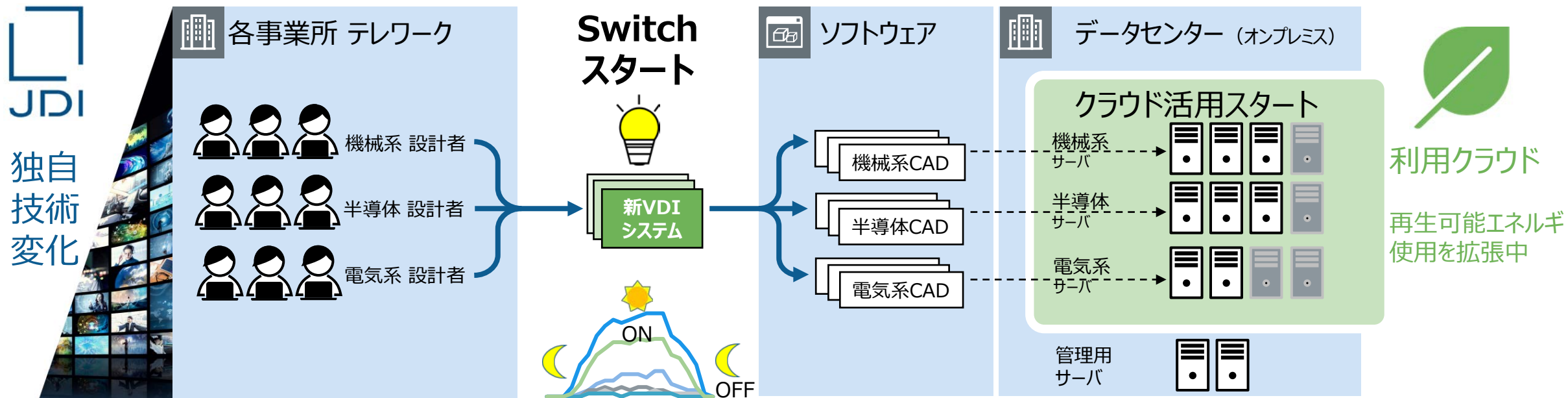
工場上空からの写真

中国製造子会社における太陽光発電設備導入

- 鳥取工場に続いて、中国製造子会社 Suzhou JDI Electronics Inc.でも太陽光発電設備を設置。7月より発電開始
- 工場の昼間の電力使用量の約20%を、太陽光発電でまかなう見込み
- 温室効果ガス削減への取り組みとして、今後も再生可能エネルギーの利用拡大を推進

設備設置場所	Suzhou JDI Electronics Inc.
所在地	中国 江蘇省 蘇州
発電出力	2,400kW
施設面積	約20,000m ²
CO2削減量	約1,520 t-CO2/年間 (見込み)

業界に先駆けて設計活動におけるデジタル技術の導入をすすめることで、設計開発力の向上に取り組み中。
CAD/CAE*¹向けVDI（仮想デスクトップ²基盤）を環境ポジティブなクラウド上で稼働開始



VDI: Virtual Desktop Infrastructure

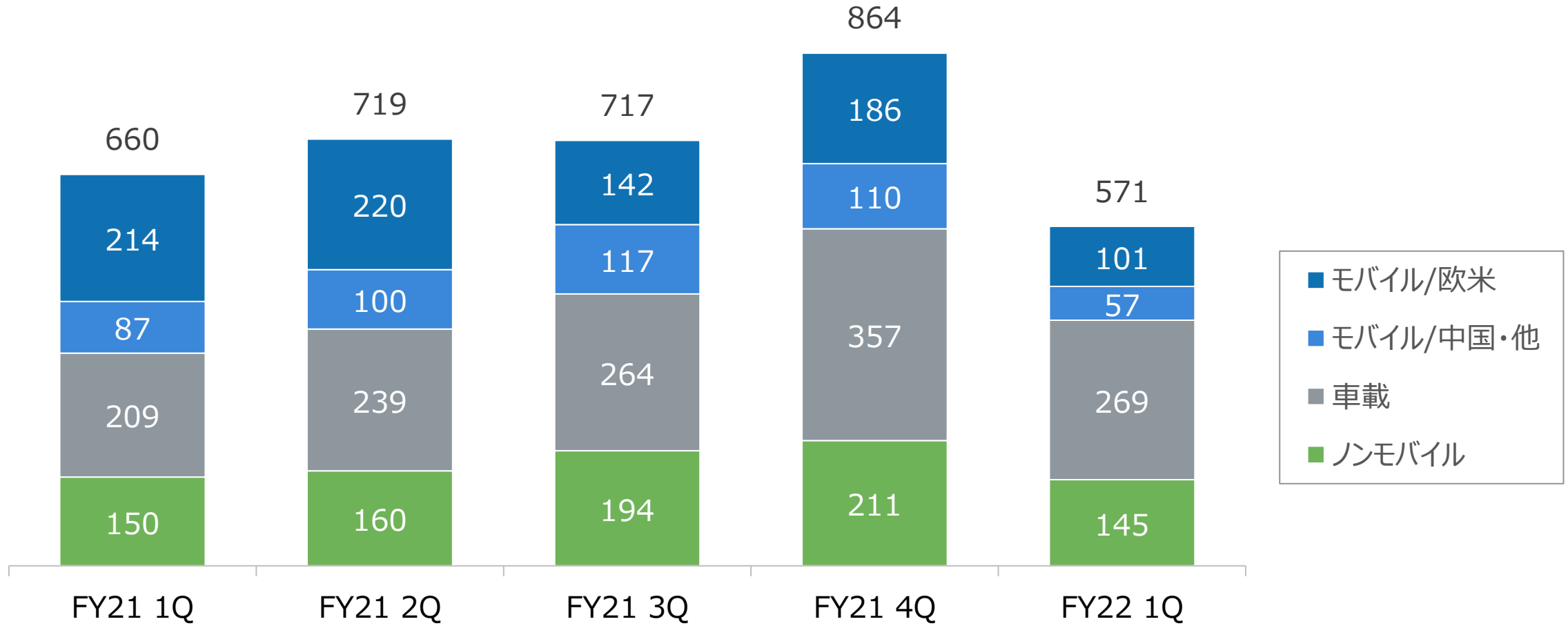
- * 1 設計CAD（Computer-aided design）とCAE：Computer-aided engineering）は、機械系、光学系、半導体系、電気系で構成しています。
- * 2 上図の人数は説明用のイメージです。弊社の実際の設計者数の割合を示すものではありません。また、各事業所 テレワークは、国内となります。
- * 3 上図は実際のネットワーク構成の一部であり、全てではありません。また、本構成で運用していないCAD/CAEソフトがあります。



Japan Display Inc.

Appendix

(億円)



(億円)	FY21 1Q末	FY21 期末	FY22 1Q末	前年同期末比	前四半期末比
現金及び預金	447	522	398	-49	-124
売掛金	328	563	431	+104	-132
未収入金	188	235	166	-22	-69
在庫	436	491	588	+152	+97
その他流動資産	47	54	63	+16	+9
流動資産合計	1,446	1,865	1,646	+200	-219
固定資産合計	786	717	740	-46	+22
資産合計	2,232	2,583	2,385	+154	-197
買掛金	426	590	436	+10	-154
有利子負債	972	750	751	-221	+1
前受金	49	33	31	-18	-2
その他負債	441	482	458	+17	-25
負債合計	1,887	1,855	1,675	-212	-180
純資産合計	344	728	710	+366	-17
自己資本比率	14.3%	28.2%	29.8%	+15.4 [°] 引	+1.6 [°] 引

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

(億円)	FY21 1Q	FY21 4Q	FY22 1Q	前年 同期比	前四半 期比
売上高	660	864	571	-89	-293
EBITDA	△ 37	39	△ 47	-10	-86
営業利益	△ 59	15	△ 69	-10	-84
営業外損益 (△は損失)	△ 5	6	25	+30	+20
経常利益	△ 64	21	△ 43	+20	-64
特別損益 (△は損失)	△ 3	△ 27	△ 1	+2	+27
税引前四半期純利益	△ 67	△ 6	△ 44	+23	-38
四半期純利益	△ 70	△ 18	△ 51	+19	-33
平均為替レート (円/米ドル)	109.5	116.3	129.7		
期末為替レート (円/米ドル)	110.6	122.4	136.7		

(億円)	FY21 1Q	FY21 4Q	FY22 1Q	前年 同期比	前四半 期比
税引前四半期純利益	△ 67	△ 6	△ 44	+23	-38
減価償却費	22	23	22	+0	-1
運転資金	△ 44	△ 149	△ 3	+41	+146
前受金	30	△ 21	△ 6	-36	+15
その他	△ 28	△ 1	△ 82	-54	-81
営業キャッシュ・フロー	△ 87	△ 155	△ 114	-27	+41
固定資産の取得による支出	△ 23	△ 23	△ 27	-4	-4
その他	1	△ 10	△ 5	-6	+5
投資キャッシュ・フロー	△ 22	△ 33	△ 32	-11	+1
株式の発行による収入	0	110	0	+0	-110
その他	△ 3	△ 1	△ 1	+2	+0
財務キャッシュ・フロー	△ 3	109	△ 1	+2	-110
期末現預金残高	444	509	394	-50	-116
フリー・キャッシュ・フロー	△ 110	△ 178	△ 141	-31	+37

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。

FY22 業績予想 (5/13発表内容)

(億円)	FY19	FY20	FY21	FY22				
	通期	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
	実績	実績	実績	予想	予想	予想	予想	予想
売上高	5,040	3,417	2,959	625	923	896	848	3,291
モバイル/欧米	-	1,626	763	80	139	100	100	419
モバイル/中国・他	-	349	414	57	78	97	86	317
車載	-	881	1,069	358	397	407	385	1,548
ノンモバイル	-	562	714	130	309	291	277	1,007
EBITDA	△ 196	△ 125	2	△ 102	△ 17	14	13	△ 92
営業利益	△ 385	△ 262	△ 86	△ 125	△ 42	△ 12	△ 15	△ 194
経常利益	△ 578	△ 327	△ 80	△ 128	△ 45	△ 16	△ 19	△ 208
当期純利益	△ 1,014	△ 427	△ 81	△ 123	△ 48	△ 19	△ 23	△ 214



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。